

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：木下の保育園 綱島東	種別：認可保育所
代表者氏名：林 美奈子	定員（利用人数）：78名
所在地：神奈川県横浜市港北区綱島東4-5-35	
TEL：045-543-6506	
ホームページ： https://www.kinoshita-hoiku.com/facility/tsunashimahigashi	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年（平成29年）4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 木下の保育	
職員数	常勤職員：10名 非常勤職員：12名
専門職員	（専門職の名称） 名
	看護師：1名 栄養士：1名
	調理師：2名
施設・設備 の概要	（居室数）保育室：6 調乳室
	（設備等）調理室・医務室・事務室・ランチルーム（2階）・多目的トイレ・エレベーター

③理念・基本方針

法人理念： 生きる力を創る

保育目標： 協調性 仲間を大切にし、思いやりのあることも
のびのび 心身共にすこやかで、意欲的に活動できることも
試行錯誤 最後まであきらめず、行動できることも
探索活動 挑戦することを楽しみ、自ら表現することも

保育方針： 協調性を持ち、他者を尊重し、認め合う心を育てる
のびのびと自己表現が出来る環境を提供する
試行錯誤をする中で考え創造し、自分で判断する力を養う
探索活動を大切にし、こどもの興味や関心に寄り添う

綱島東保育園 園目標：
遊びは学び； 育児のパートナーとして支援を行いながら
遊びの大切さを保護者に伝える
食は生命（いのち）； 食べることは生きることへの繋がり

④施設・事業所の特徴的な取組

・遊びは学び：

遊びは子どもの命を充実させること。

子どもがそれぞれの年齢で一番やってみたいと思うこと、子どもが思い切り遊びこむことを通して、何が育っているのか、どうすれば学びの機会につながるのか、常に考えて子どもに寄り添っています。0歳児から5歳児の乳幼児期が、その後の育ちを支える大切な土台を作る時間とみなしています。

・食は生命：

食えることは生きることにつながり、食は自然の治癒力にもつながります。一つ一つの食材の本質を知り、それぞれ食材の働きを理解し、和食を基本にした給食を提供しています。楽しく食事をする・おなかがすいて食べるリズムを持つ・食に興味を持ち調理することにより、食べ物と体の関係に興味を持ちます。食を通して人間関係とマナー・五感を使って実体験することにより、食への関心と興味から全ての命を大切にすることを養います。

・異年齢交流： 異年齢の友達との関わりから豊かな社会経験が生まれます。

・ランチルーム（buffet形式）： 3歳児以上を対象にビュッフェを導入し、自分で好きなものを食欲と好みに応じておかわりができます。

・木育（木工製作）： 木に触れることで形・感触・音・香りや本物の道具を使って作りあげていくことにより、包括的な学びが得られます。

子育て支援：

- ・「キノクラブ」による活動： 歯について、絵本の講習会、救急救命講習会・食育
- ・ちょこっと体験（妊婦の育児体験）

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和元年6月10日（契約日） ～ 令和2年3月5日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	- 回（ 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1)保護者とともに子どもを育てる姿勢が徹底しています

「生きる力を創る」「遊びは学び」「食は生命(いのち)」とする園の理念や方針を保護者と共有しながら行う保育に努めています。

保育所保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を「園で見つけた10の姿」として子どもたちの遊びの写真を見ながらワークショップ形式の懇談会を行っています。

保護者と意見交換を交えながらたくさんの遊びから得る学びが園の目標とする「遊びは学び」に繋がることの理解を深めています。

また、日中の活動で体調を崩した子どもの様子を記録し、保護者が医療機関に伝えやすい「体調経過記録」を渡しています。園は保護者が安心して預けられる子育てのパートナーとして保護者と共に子どもを育む姿勢を随所で表明しています。

2)充実した食育活動を展開しています

園の保育目標「食は生命」の一環として食育に力を入れています。保護者から家庭では教えられない日本の伝統的な食や調理法を学ぶよい機会だと好評を得ています。

給食は、旬の野菜で薄味にし、素材の味やうまみを生かした和食を基本にしています。添加物や市販の加工品を使わず、一からの手作りです。野菜栽培、収穫、買い物、料理、準備、下膳などの体験から食への関心や興味に繋がっています。

地元の麴店の協力を得て子どもたちが年に2回味噌を仕込みます。発達年齢で出来る工程をそれぞれが体験し、達成感を味わうことが出来る「みんなの自前みそ」造りです。幼児クラスでは段階的に包丁や火の扱い方を経験し、味噌汁づくりに挑戦しています。園の給食やおやつには子どもたちの自前みそが振舞われるなど「食は生命」「食は子ども的一生を左右する」という園の理念が、日々の食育でしっかりと反映しています。

◇改善を求められる点

1)現在と未来の人材育成（職員の専門性の向上・実習生の受け入れ）

職員の階層別研修やキャリアパスなど、研修受講の体制は構築されていますが、内外で行われる年間の研修リストから本人の受けたい研修や園が受けてもらいたい研修などを効率よく受けられる体制の整備が期待されます。

現在、園では実習生の受け入れの実績がありません。次世代の保育士育成の学びの場として、また、職員の振り返りの機会として、実習生の受け入れを積極的に受け入れる取組みや基本姿勢の明文化、マニュアルの整備、担当指導者の育成などの体制の整備も期待するところです。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園3年目にして初めての第三者評価受審となりました。日々過ごす中でひとりひとりが改めて立ち止まって自分達の保育を振り返られるいい機会を設けることができました。

開園から私達は、お子様が主体的に関われる環境作りを意識し「遊びが学び」に繋がる大切さやお子様の食がこれからの食生活の土台になる重要性を日々保護者や地域の方々に発信してきました。その発信をしっかりと受け止めて頂き良い評価を頂いていた点は自園の長所として捉え、更なる向上を目指し今後も継続してまいります。

受審の結果を真摯に受け止めつつ、課題を洗い出し職員同士で解決策を模索しながら保育の質を高めていきたい所存でございます。又、保護者や地域の方々の子育ての拠り所になれる園を目指し「共育て」を強化して参りたいと思います。

最後に第三者評価受審に際し、ご協力を頂いた株式会社フィールズ様、ご多忙の中アンケートにご協力いただいた保護者の皆様に深く感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり